

登録コード	TSG56500	開講年度	2026				
授業科目	電子物性特別実験Ⅰ					担当教員	浦上 法之
英文授業名	Electronic Physics Laboratory 1					副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室				授業形態	実験	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					⇔	【授業の達成目標】
	2 4TSカリ， 2 3TSカリ						
	【研究科共通】 人類，社会の平和的・持続的発展のために，研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観					⇔	他者の先行研究を理解することにより，自身の研究の発展性について考えることができるようになる。
	【研究科共通】 環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力					⇔	カーボンニュートラルを自身の専門分野を通して如何に実現できるかを考えることができるようになる。
	【研究科共通】 さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力					⇔	発展が著しい科学技術において，最先端の技術に常に意識を向け自身に取り入れることができるようになる。
	【研究科共通】 深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力					⇔	研究に関して，自身の考えを俯瞰的に考え説明できるようになる。
	2 6TSカリ， 2 5TSカリ， 2 4TSカリ， 2 3TSカリ						
	【専攻】 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観					⇔	次世代の電子工学分野において，電荷の様々な性質を融合させる発想を得ることができるようになる。
	【専攻】 環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力					⇔	電子工学を通じてカーボンニュートラルを如何に実現できるかを考えることができるようになる。
	【専攻】 さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力					⇔	電荷の粒子と波の性質を考えることにより，次世代電子素子の微細化と集積化の考え方を理解しその課題と解決方法を提案できるようになる。
	【専攻】 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力					⇔	研究とその考察および発表により，自身の言葉で説明することができるようになる。
(2)授業の概要	授業期間全体を通じて，様々な電子材料の作製および物理性質の解明に関わる実験を行い，得られた結果の解析，データのまとめ，成果の発表，論文の作成が求められる。						
(3)授業計画	授業期間全体を通じて，様々な電子材料の作製および物理性質の解明に関わる実験を行う。 実験の進展状況については随時報告・議論させることによって，解析能力，課題解決力を身につけさせる。 最後に得られた成果をまとめ，発表させる。						
(4)成績評価の方法	実験結果に基づいてまとめた論文において，計画性，実験の手法，実験データの解析手法，独自性等を総合的に判断し，下記の5段階で評価する。						
(5)成績評価の基準	授業の達成目標を ・十分達成できているものに「秀：90-100点」 ・達成できているものに「優：80-89点」 ・ある程度達成できているものに「良：70-79点」 ・大凡達成しているが，十分でないものに「可：60-69点」 ・達成できていないものに「不可：0-59点」 の評定を与える。						
(6)事前事後学習の内容	文献調査および最先端技術を調べる。						
(7)履修上の注意	基礎的な知識を習得するとともに，研究者としての基本的な態度を身に付けられたい。						
(8)質問，相談への対応	随時対応する。						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						